

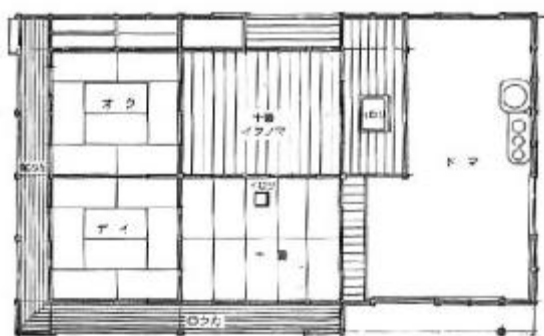
住まいは便利な方がいい！と言うが、便利さにもいろいろあります。

便利とはを考えてみると、家の日常生活に必要な道具や電気器具などが、必要十分に揃っていることがその条件でもあります。また住まいが機能的・合理的な作りになっているかも、その一つです。

現在の生活スタンスの根本的な考え方としては、男女平等の意識に立って、住まいの機能空間を構成することが一般的な考え方になっています。

間取りによる便利さ

農家型古民家の間取りを見てみましょう。土間があり囲炉裏のある板の間、そして客用の部屋、奥に薄暗い寝間というふうに実に単純な間取りとなっていて、いわゆる田の字型間取りといわれています。



旧野口家住宅 (さいたま市文化財)



古民家 通り庭の家の画像より

現在の住宅の間取りからすると、ずいぶん大雑把な部屋の割付になっています。いったい家族等はどこで寝るのか、家族の団らんの部屋は、浴室やトイレは何処にあるのか、と心配になります。

このスタイルは、町場の住宅、京都などの古い住まいでも類似した間取りで、ウナギの寝床または通り庭形式といわれる間取りをしています。機能性から見ると部屋と部屋が隣接しているので、移動するにはいずれかの部屋を通らなければならないので、部屋にいる人のプライバシーがありません。

こうした問題から通路専用としてのスペース、廊下が登場しました。これにより各部屋が独立できるようになったのです。

ところがこの形式を重視するため今度は部屋が細切れになり、部屋どうしの融通性が無く

なったことで、今日では部屋を大きく使おうという発想に変わりました。この発想に基づいた構造をもつ住まいは、ライフサイクルに合わせ変化に対応出来るメリットがあり、空間構成によって便利さが大きく違って来ます。

設備などによる便利さ

言うまでもなく当節は様々は道具や電気製品、そして建築的仕掛けが手に入る時代です。

例えば

- ・省エネで、セキュリティ対策として人感センサーライト
- ・大型のタンスをなくしウォークインクローゼット



婚礼タンス セットの画像より

- ・造作の食器棚



大工制作の食器棚と調理キャビネット（設計植木）

- ・棚やクローゼットの収納
 - ・室内物干し場と金具
 - ・食器洗い乾燥機
 - ・ユニットバス
 - ・階段、廊下の手すり
 - ・ロフト収納
- 等いろいろあります。

AIからIoTの時代に

AI (Artificial Intelligence : 人工知能) から更に進化し、あらゆる機器がネットワークでつながる時代が目の前です。そのIoTの流れに沿ってロボットが登場し、いわゆるスマートホームと言われロボットが「家の中の地図」を描き、自身が今どこにいるのか、部屋の中のどの部

分が掃除されていないのかを高精度に判断する・・・。というようなことが「東洋経済」IoT 特集『IoT 発進』(Internet of Things) で数年後の住まいの変化について述べています。

このようなスマートハウスは、どんな形の建物が造り出されてくるのでしょうか。というように「便利な住まい・未来住宅」をイメージし、実現する時代になってきたようです。



↑ ロボットですか?いい家です。歩くことのできるエコな家「Walking ...」のサイトより



(写真 5) 東京大学 IRT 研究機構が公開した「ホームアシスタントロボット」, 食器の片づけから洗濯、掃除までを行うことができる。(東京大学 IRT 研究機構の資料より引用)

↑ 生活の中で家事を手伝ってくれるロボット | 未来コトハジメ - 日。。のサイトより